

令和4年度 第3回社会教育委員会議事録

【日時】 令和4年（2022年）12月27日（火）14：00～16：00

【場所】 市役所3号館3階 301会議室

【出席委員】

議長	梨本 加菜	副議長	櫻井 聡
委員	臼井 護	委員	小林 純子
委員	志村 直愛	委員	八矢 信宏
委員	蛭田 道春	委員	松本 敬之介
委員	山岸 雅人	委員	渡辺 孝夫

【欠席委員】

委員	浦野 千鶴	委員	加藤 春樹
委員	塩野谷純香	委員	濱田 恵里
委員	林 但		

【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃	生涯学習課長	柿原 美奈
同課係長	島内 さおり	同課主任	遠藤 雅弘
同課アシスタント	杉山 一美		

【オブザーバー】

(公財)横須賀市生涯学習財団事務局長 高橋 直人
(公財)横須賀市生涯学習財団事務局主任 大柴 裕二

1. 開会

議長が会議の開催を宣言し、会議を開始した。

2. 教育総務部長挨拶

教育総務部長から、挨拶を行った。

定足数について

委員15名のうち10名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議規則第4条第1項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者0名）、配布資料の確認を行った。

3. 報告 令和4年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会（愛川町会場）について

事務局から報告を行った。

4. 議事

（1）小委員会の設置について

事務局から、小委員会の設置について説明を行った。

議長 本件について異議がなければ承認でよろしいか。
（異議なし、承認）

事務局から、小委員会会議概要報告、資料の説明を行った。

（2）市民大学講座について（講座内容）

公益財団法人横須賀市生涯学習財団の職員から市民大学について説明を行った。

議長 質問はあるか。

委員 講座の候補はどの様に決めているのか。ニーズはどの様に情報が入るのか。

財団職員 源氏物語など物語を継続して読み進めていく講座や、実施をして人気の高い講座はニーズがあるので、次年度も継続している。

新たな講座は職員が情報収集をしている。他の大学の公開講座を参考にしたり、団体との連携を重視している。昨年度は観音崎自然博物館、今年度は久里浜の港湾空港技術研究所、来年度はYRPと連携をしている。まだ連携していないところとの連携を考えて、企画していきたい。受講者のアンケートからニーズを調べている。今後、まだ受講していない人のニーズを調べる。大学の公開講座で長年開催されていたり、募集人数の多い講座はニーズが高いのではないかと思い参考にしている。ニーズを掴むことは永遠の課題だと思っている。

財団職員 担当者6人がそれぞれ個々にアンテナを張り巡らし、いろいろなところから情報を仕入れ、その中で人が集まると思われるテーマを出し合って協議して選んでいる。

副議長 同じ内容が多くなると思うが、新しい発想の講座はどのようにでてくるのか。

財団職員 受講者の割合は60歳代が25%、70歳代が45%、80歳以上が15%である。これから70歳代になる方々をターゲットにして、60歳代に響く講座は何かを協議し、ビートルズを企画

- した。後期で一番応募があった。結果的にニーズがあった。
- 財団職員 講座内容だけではなく、今までは通年や10回など回数が多い講座を中心に行ってきたが、最近では1回や2～3回のように短時間で学べる講座にニーズがあるように見受けられる。
- 委員 コンテンツとメソッドをどう繋げるかだと思う。6人が毎年企画をしていると、6人だけの視野やパターンが出来上がっていかないか。民間カルチャーセンターに伺うと実際の民間レベルの企画者から情報やポイントが得られるのではないか。できるだけ層を獲得していくために違った角度の層や企画者の情報もサブシステムとしてあるとよい。今のベースに乗っけていけるとよい。資料3を見ると、平成26年から定員超えの講座が減ってきている。社会教育でなく、他の分野の民間の講座を参考にするとよいのではないか。
- 議長 視野を広げるというご意見をいただいた。
委員の方々に受けてみたい講座のイメージについてご意見を伺いたい。
- 委員 歴史が好き。インパクトのある資料と説明があるとよい。タイムリーなものの取り扱いがあるとよい。目で見て納得のいくもの。エビデンスのあるものをお願いしたい。
- 委員 自分なりに資料は読んでいるが、一般的に取り上げられないものが日本の近代史だと思う。興味がある分野なので、ぜひ、講座があれば受けてみたい。
- 委員 キャリアをキーワードに仕事をしている。働き方、幅広く生き方全般についての講座があったらよい。
- 委員 ほとんど毎日市民大学に行っている。今年度の後期で見ると今までにない講座が目立っていると思った。例えば、日曜日に4回開催の「断捨離」は半数以上が女性で女性と男性の比率は6対4位であった。前後の列で課題を出されて各自言い合う形で、自分たちで話す講座は今までなかった。このような形を広めるのもよいと思った。
オンライン講座の「トルコ8日間の旅」はオンラインであるため、家で見ることができ、見逃しても1週間後に配信がありよかった。ぜひ続けていただきたい。
「マイクロプラスチック」について取り上げてほしい。自分たちで何ができるか、体験できるような学習があると嬉しい。
- 委員 朝日カルチャーセンターとNHKで講座を持っているが、朝日カルチャーセンターでは現地歩きの講座が人気でコロナの影響もないため、20年続いている。
家で受けられるオンライン講座はよい。大学の講義をオンデマンドにしたら、受講者が700人になった。レポートは大変だが、受講しやすく、好きな時に受けることができ勉強できる。引込思案の子たちが積極的に受講できるので、救済にもなっている。
少子高齢化のため、若い世代に対する講座がよい。ジュニア講座をしっかりとされているので感心したが、定員が少ないので、もう少し増やして学校では教えてくれないことを教えてくれるような講座を開催したほうがよい。若い人達が街を担っていくため、街の課題を提案する等、進学先や方向性を決めるような自分のキャリアイメージを中高生が持てると塾とは違った目線で学びを考えることができると思うので、将来的にはそこを育てることが大事だと実感した。
- 委員 歴史は人気だと思うが、小学校5年生の子どもがいるため、歴史だけでなく、5年後、20

年後、未来に役立つ講座があったらよい。

委員 人生、生涯を通してやりたいことは子どもの時に体験したことである。具体的に言うと和風を作っている。2月に田浦梅林で親子凧揚げ大会を行う。「自分だけの凧を作ってみませんか」という行事を保護者同伴で小学生40名位募集をかける。和風研究会に入っている。文化として残していきたい。親子で体験が大事。小学校1年生から大学生まで続けて詩吟をやっている子もいる。長い目で見てコツコツやることも大事だと思う。歴史が好き。横須賀の歴史、浦賀歩き、夏島貝塚など地域に目を向けた講座がよい。横須賀美術館のスカジャン展もよかった。

副議長 香りに関する仕事をしているため、手作り香水講座があるとよい。日本は先進国の中で一番香水を使わない後進国である。疲れているとグリーンやウツの香りしか感じられない、元気だとシトラスやオレンジの香りをよく感じるなど、知りながら体験しながら香りの文化を広げていくという講座ができたら嬉しい。ビートルズ講座はとてもそそられた。ロック史、ローリングストーンズなどがあれば受けたい。

議長 楽しそうな企画がたくさん聞けた。横須賀でないと聞けない講座を期待したい。受講者として参加したい。香りの講座は作り手の目線で企画ができるように思った。受講者としての立場から受けてみたい市民大学の講座を手作りするという講座に携わっている委員から説明をお願いしたい。

委員から、『すかいいとーく』について説明を行った。

委員から、『食べてダベってコミュカUP』について説明を行った。

委員

- ・メンバーの中にチラシ作りについて学びたい人がいたので、その方を中心にまとめた。
- ・メンバーの中に写真を撮るのが得意な人がいたため、その方のコレクションの中から選んだ。古き良き松竹映画のオープニングのような仕上がりになった。
- ・タイトルは横須賀の「すか」、爽やかな青空の「スカイ」、「良いトーク」、小さい「い」はデザイン的に動きを出すために小さくした。
- ・チラシ上部の「もっと知ってよ横須賀市」がテーマ、コンセプトである。これまでは市民から動いて行って横須賀市を知ろうという講座は多かったと思うが、今回は横須賀市の側から市民に近づいて行ってほしい、そういう建て付けの講座である。横須賀市が市民に発している言葉ということになっている。
- ・協議の中で6名のメンバー全員が繋がりというキーワードに気持ち、不安を持っていることがわかった。家族との繋がり、地域やコミュニティとの繋がり、行政や法的なサービスとの繋がりなどが大きく変わってきている。例えば、今は元気だが、年を重ねていった先に今の繋がりがどうなるのか。どう変わっていくのか。情報の伝わり方が大きく変わってきていて転換期である。
- ・行政サービスの通知がプッシュ型からプル型に変わってきている。「詳しいことはウェブで」という形で知りたい人が自分で調べる、自分で探しに行かないと情報が得られな

くなった。知らないで損をしてしまう。今までは何もしなくても届いていたものがこれからは自分で探しに行かないと手に入らなくなったのではないかとみんなが不安を持っている中で知っているのと得をする、世の中の流れにあがらうことは難しい、ならば今のうちに情報の入手方法などを予め知っておくために一部を紹介する講座を考えた。

- ・シルバー世代が気になる場所を答えてくれそうな出張出前トークのメニューからピックアップをして各課に依頼し、快諾いただいた。
- ・財団に登録しているサークルの中から、市民ミュージシャンのポコ・ア・ポコヘミニコンサートをお願いした。
- ・質問はその場では取らず、アンケートで取って各課へ送り、間に合えば次回の講座の時に壁新聞などで回答を掲示し、最終的には生涯学習センターと市内各所に貼ってフィードバックまでを一つのパッケージと考えている。
- ・メンバーは地方出身者のお母さんが多く、孤立の子育てを経験していたことから、講座に参加することで自然にママ友作りができるような講座を企画した。
- ・タイトルの「ダベって」は横須賀弁である。あえてダサくしてインパクトをだした。
- ・ターゲットは0・1・2歳のパパやママ。保育園や幼稚園に入ると仕事などで親子の時間をとることが難しくなる可能性が高い。また、この年齢からのママ同士の繋がりは長く続きやすいということからこの年齢に限定して講座を企画した。
- ・講座は2回開催として、親子でも参加しやすい開催回数と時間帯を考えた。
- ・1回目はコミュニケーションスキルを学ぶ講座。2回目は横須賀の食の魅力を伝えたい、子どもの好き嫌い、おいしい食べ方、横須賀の食を楽しんでもらうなどの講座を開催する。参加費は2回で2千円。市民大学よりは少し高めの設定だが、講師費用、施設費用を考えて2千円という参加費になった。
- ・大人だけの参加もできる。
- ・予算がなかったため、逸見地区社会福祉協議会子育てサロンひよこの皆さんにボランティアで見守りをお願いした。騒いだり、すぐに泣いてしてしまうお子さんがいるママたちも気軽に参加しやすいようにチラシの裏面に「お子さんの同伴について」を記載した。
- ・チラシのイラストは横須賀市で活動をしているママにボランティアでお願いして書いていただいた。

委員

議長

今大学でも、学習者本位の授業と言われるようになった。学ぶ側、学びたいもの、学ぶ必要があるものと企画する側が探って運営していくように授業も変わってきている。

市民大学講座について、生涯学習財団からは作り手側の目線での話、関わった2名の委員からは受講者側の目線での話をいただいた。2つの目線から話を伺い、何か意見はあるか。

委員

せっかく作った講座なので、成功してほしいと思う。

副議長

市P協の講演会は参加者が振るわないことが多い。コロナ禍で 유튜브 やネットで仕入れられる情報がとても多くなってしまった。そこでもとれるような同じような講座では集客ができない傾向がある。今回2つとも会場に行って体験する型なので、非常に面白い試みだと思った。ネットでは手に入らないものなので興味がある。

委員

生涯学習財団に聞きたいのだが、今回の企画は一度で終わりか。

- 財団職員 予算的なものもあり、絶対には言えないが今回のような試みを続けていきたいとは考えている。
- 委員 市民目線、受講者目線で講座を作っていくということはとても画期的な企画であるが、その時に行政の役割は何かはずっと引っかかっていた。例えばこのチラシを受講者目線でチラシを作ってきた上で、もっと見てもらえるようなチラシにするために、ブラッシュアップする役割が行政にあるのではないかと思う。例えば、神奈川県印刷物は神奈川県のマークが必ず入っていて、担当している課が一目でわかる。このチラシは横須賀市生涯学習センターが出すチラシだとして、それが本当に市民に分かってもらえるのか、市民大学と分かってもらえるのか、「食べてダベって」のほうは市民大学という言葉も入っていないので大丈夫なのかと思いながら見ていた。行政が責任をもってブラッシュアップしているのか不安になった。県にはチェックする部門がある。
- 議長 県のチラシにはロゴマークがある。ブラッシュアップ、統一性、表記についてはどうか。横須賀市では主催者の名前を書く以外の決まりはない。今回は主催が生涯学習財団であるため、このような書き方になっている。横須賀市のマークを全てに入れるようには今はなっていない。そうすべきかは検討が必要である。各社会教育施設の講座を企画する担当者向けの研修会などを生涯学習課で開催している。そういった中でチラシのレベルアップや見てもらえるチラシ、広報の方法などはどの施設も悩んでいると思うので、今後もそのような研修は続けていきたいと思っている。今回の企画の講座の中にもチラシの作り方の回があったので、全く何もやっていないということではない。
- 委員 チラシについての話は2年間かけてやろうとしている中の一部で、もう少し経つとそれぞれから意見が出てくる内容だと思う。
- 委員 各行政が参画している講座は初めての試みである。講座を通して行政の役割、行政のサービスを学ぶ場にもなり、ひとつの方向性がかなりあると思う。この試みは簡単なようで大変である。やったから終わりではなく、今回をベースにして次の段階のステップになる。よかったら講師を交換してもよい。有名でない講師でも内容がよくなれば行ってみようとなる。非常に期待できる。生涯学習センターにはABCプランというベースがある。学びの形態としてこれから期待したい。
- 委員 チラシは手作り感がありよい。共通で参加費の記載がわかりやすくあるとよい。「市民向け講座」のような一目でわかる共通のマークをいれるなど工夫があるとよい。
- 委員 講座のボランティアの中で話したが、講座の評価をどうするかがでていた。例えば開催により、出張出前トークのリクエストが増えたなど、今後、テーマの一つとして評価の方法をどうしたらよいかを話し合いたい。
- 委員 評価の仕方は内部だけでなく、第三者評価がよい。学習手帳のポイント制を横須賀市での活用は考えていないか。サービスの仕組みとして福祉などに学びのポイントが使えるとよい。いい表紙だがもう少し工夫したほうがよい。発展性があるとよい。
- 議長 ポイントが福祉の面などでも使えるとよい。行政役割について貴重なご意見をいただいた。コーディネート、デザイン、視覚的に持っていて嬉しくなる統一したデザインやフォントなどができると作る側も受ける側も変わってくると思う。今後の課題になると思われる。

『すかいいとーく』はあくまでも市民大学として、緻密にできている行政の仕組みも分かっていたり新しい形態の講座となっている。『食べてダベってコミユカUP』はターゲット層が明確になっていて、パパもしっかり入っている。夫婦での参加も可能か。

- 委員 夫婦でも可能である。パパはコミュニケーションの講座に参加しにくいと思うので、ママがメインになると思われるが、パパも一緒に子育てに加わって欲しいと思い、入れた。
- 議長 専門家のレクチャーを受けながら、受講者のコミュニケーションを図っていく講座となっている。ニーズで評価は非常に厳しいことになるかもしれないが、ABCプランで横須賀市に歴史があるように第三者のニーズが少なくてもしっかりした講座として良くしていくことは大事である。今後の社会教育委員会議の場で見えていくということも必要だと思う。
- 副議長 参加人数では評価は測れない。市P協ではグーグルフォームでアンケートを取って、評価を得ている。初めての試みであるため、受け手側の評価も大きく分かれると思う。次に生かせるようにステップが踏めるとよい。
- 委員 大学で授業評価が盛んで、具体的に文章で書いてもらう独自のアンケートを作成した。厳しい意見も多いがよいところだけでなく、全てを受け止める姿勢、受け止めて前に進む姿勢が大事である。トライアンドエラーを生かして改善していくとよい。
- 委員 評価を発表したほうがよい。『すかいいとーく』にポコ・ア・ポコの演奏があるが、演奏は芸術文化に関わる人たちの拠点になるところでやると人が集まるからよいと思う。違った層も入ってくる。八幡様のぼんぼり祭りは鎌倉の芸術家が描いている。文化水準が上がると変わってくる。センターの美術サークルの人にお問い合わせなどもよい。宣伝効果になる。
- 議長 美術館など特化した場所だけでなく、アーティストの拠点、発展性、活躍の場になるとよい。市民が自分たちで作っていくことで発展して考えていけないかと思う。次回の会議では、講座の形、枠組みに関することとして、講座の時間帯や長さ、回数、また情報の発信方法や発信先についての審議を行いたい。

5. その他連絡事項

事務局から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和 年 月 日

議事録署名人